

水戸の湧水とその役割



茨城大学教育学部附属中学校
2年3組 佐々木あすか

目次

1. 研究の動機	1
2. 研究のすすめ方	1
3. 研究内容 水戸市の主な湧水	2
(1) 調査した湧水の場所	2
(2) 湧水の調査内容	2
①大井戸	2
②軍民坂湧水	3
③大井神社と三寒泉	3
④渡里湧水群	3
⑤曝井	4
⑥お茶の水湧水群	4
⑦神明水	5
⑧洗心泉	5
⑨小澤の滝	5
⑩吐玉泉	6
⑪玉龍泉	6
⑫笠原水源	6
4. まとめ	7
参考文献	8

1. 研究の動機

皆さんは、水戸にはたくさんの湧水があるということを知っていますか？

昔、湧水は生活する上でなくてはならないものでした。

しかし今では、水道（上水道）が発達したため利用することも減り、身近な存在ではありません。

私はそんな水戸の湧水を、以前、調査したことがあります。

その1つが曝井です。

私の学校の近くにあるその湧水は、生活で使用することではなく、観光客が訪れることもほとんどありません。

ですが、町内会の人たちが定期的に掃除をしています。

このことを知ったとき、私は、湧水と地域の人の深い絆を感じました。

他の湧水についても、このような地元の人たちの湧水への愛着が感じられました。

そこで、

湧水は何の役に立っているのだろう？

なぜ大切にしているのだろう？

と疑問に思い調べることにしました。

2. 研究のすすめ方

(1)文献を調べる

県立図書館の郷土資料のコーナーや、郷土資料を専門に扱う古書店などを訪れて調べました。

また、インターネットでは、論文や水戸市の報告書・広報紙、市民活動のホームページなどを見て調べました。

インターネットで調べるときには、個人の趣味のホームページなどは避けて、国や地方公共団体・市民団体の公認されたホームページから情報を集めるようにしました。

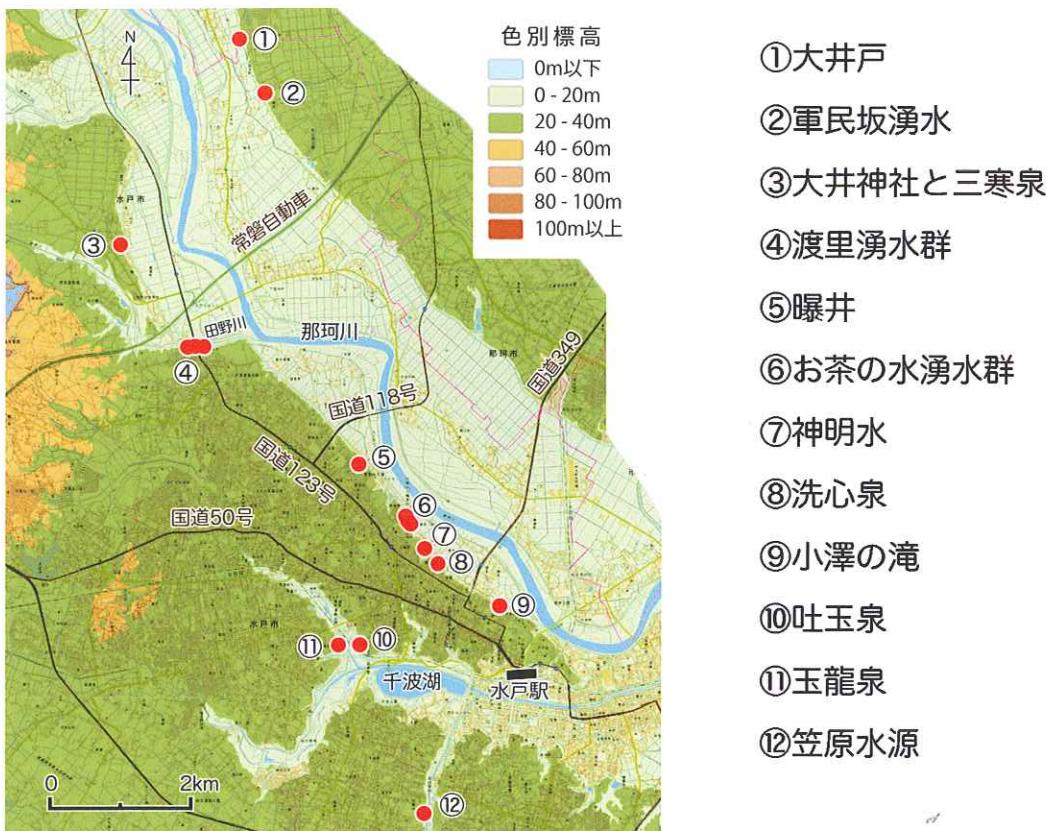
(2)現地調査

湧水のある場所だけでなく、付近を歩いたり、地域を広く観察しました。

3. 研究内容 水戸市の主な湧水

(1)調査した湧水の場所

調査した湧水の場所を●と番号で地図に示し、右に番号に対応する湧水名を示しました。



(2)湧水の調査内容

①大井戸

上国井町鹿嶋神社の西側にあり、上国井町「一里塚」バス停から東に 500m ほど進んだところにある湧水です。

湧水地には3つのコンクリート製の円筒があり、それぞれから水が豊富に湧き出しています。

また、円筒の外側でも水が湧き出している様子がたくさん見られます。

この湧水は、古代より飲用や農業用水に利用されていたようですが、近くに検査証などはありませんでした。

周辺の池や小川には、ホタルの幼虫のえさになるカワニナが多数見られ、地域ぐるみで「大井戸ほたるの里」に取り組んでいるそうです。



②軍民坂湧水

上国井町公民館から東に約 200m 進んだ軍民坂の中ほど左側にある湧水です。

古いコンクリートで丸く囲われた中から水が豊富に湧き出て、側溝に流れ落ちています。

近くには飲用水の基準に適合しているという検査証が貼られ、ひしゃくがつるされています。

時々水を飲んだり、汲むために立ち寄る人が見られ、今も地元で大切に利用されているようでした。

東日本大震災のときには、水を求めて行列ができたそうです。



③大井神社と三寒泉

初代仲（那賀）國造に任せられた
建借馬命が、干ばつに悩む住民を救う
ため掘った井戸といわれ、現在も神社の
高台下、国道 123 号の旧道沿いに「大井」、
「仲井」、「加満井」と呼ばれる当時の井戸
(三寒泉とも呼ばれる) があります。

加満井、仲井は今も生活用水として使
われています。

大井神社は当初、建借馬命が天照大神
を祀って創建しましたが、奈良時代に建借馬命が祭られたそうです。

大井神社の付近には他にも湧水が多く点在しており、小さな祠(ほこら)や大井神社
のお札がたくさん見られます。



④渡里湧水群

国道 123 号線を茨城大学から北に 2km ほど進むと見える、渡里台地の端のがけ下を流れる田野川の南岸にある湧水群です。

国道が川を渡る手前に左折する道がありますが、作業用道路のため一般車は入れないので、徒歩で行く今年なります。

道端には湧水地点の案内図があります。

国道西側のがけ下にある「出水」と呼ばれる湧水は、



木の枠から湧き出ています。

また、国道下のトンネルをくぐって東に行くと「坂下の泉」と呼ばれる湧水があり、それは、竹の樋から水が流れています。

付近は、ほたるの生息地として保護されています。

他にも沢ガニなども見られ、自然豊かです。

近くには国指定の遺跡や縄文遺跡など歴史的遺産も多く、湧水とともに保存活動が行われています。

⑤さらしい 曝井

愛宕山古墳西側の滝坂の途中にある湧水です。

約1m四方の泉の中央から水がわき出していて、近くには小さな池ができています。

現存する最古の歌集「万葉集」の巻九に
「三栗の那賀に向へる曝井の絶えず通はむ
彼所に妻もが」とよまれています。

昔は水がきれいで湧水量も多く、布を洗つてさらしていたそうです。



現在では湧水は飲用や生活用水としては利用されていません。

水戸市唯一の万葉の遺跡として名所の一つとされていますが、「万葉曝井の森」として整備されたのは平成7年になってからです。

町内の人々が定期的に掃除をしていますが、県外からの観光客はあまり見られず、ひっそりとっています。

⑥お茶の水湧水群

茨城高校脇の七曲坂を下りたあたりに広がる湧水群です。弓道場下湧水、七曲坂湧水、お茶の水湧水、祇園寺下湧水などの湧水を見ます。

お茶の水湧水は、江戸時代に水戸藩の役人が領内を見回り、馬口労町（今の末広町）あたりで休憩したとき、この湧水でお茶をたて、もてなしたことからこの名前で呼ばれるようになったそうです。



湧水の水は竹のパイプから出ており、しおどしに注いでいます。

現在は飲用できず、農業用に使われています。

付近の湧水は小さな池になっているところが多く、ザリガニがたくさんいて、ザリガニ釣りであそぶ子どももいるようです。

⑦神明水

水戸八幡宮東側の太郎坂を下りると左側に神明宮という小さなお宮があり、その下側にある湧水で池（八幡池）になっています。

神明宮は昔、八幡宮のみそぎ所で、神前で仕える際にこの湧き水で身を清めたといいます。

以前は近所の人たちが野菜や農機具を洗っていましたが、平成4年に小公園として整備されました。

大きな鯉が数匹泳いでいました。



⑧洗心泉

水戸市立五軒小学校校舎北側の運動場に下りる6×9階段下のわきにあり、がけ下2カ所から湧き出して、すぐ前の太郎池にそいでいる湧水です。

太郎池の水は下流の次郎池に引かれ、水生植物やザリガニ等が育てられて体験学習に利用されています。

小学校校内なので、見学は許可を得ておこないました。



⑨小澤の滝

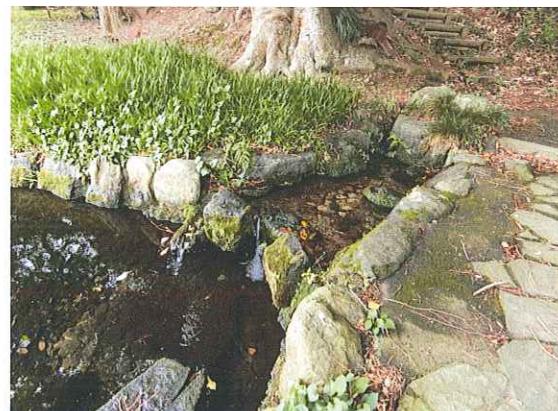
水戸東武館から西側に約250mのところにある狭い路地を入り、通称ひぐらし坂と呼ばれる階段を下りたところにある湧水です。

東武館北側のがけ下にあり、東武館の敷地内にありますが、平成3年に小公園として整備され、誰でも入ることができます。

斜面緑地から湧いた水が、周囲10mほどの池に注いでいるだけで滝の面影はありませんが、昔は高さが1mほどの滝であったと伝わっています。

池には鯉やヒゴイがいます。

江戸時代までは「田見小路井水」と呼ばれていたが、東武館（もとは創設者小澤寅吉の邸宅）が創設された明治以降に小澤の滝と呼ばれるようになったそうです。



⑩吐玉泉

偕楽園内にある湧水です。

好文亭の表門から千波湖への坂道の途中にあり、石の井筒から湧き出しています。

徳川斉昭公が偕楽園をつくるにあたり、周辺から湧水を集めて井筒から噴出する仕組みをつくらせたそうです。

井筒には常陸太田市真弓山産の白い大理石（寒水石）が使用されています。

泉の水は、好文亭の茶の湯にも使われたそうです。

泉の近くには「飲用水としては提供していません。」という立て札がありますが、飲用水の基準に適合しているという検査証もあることから、災害時には使用できると思います。

現在は偕楽園内の見所の1つとなっていて、観光客も多いです。



⑪玉龍泉

徳川斉昭公が偕楽園や桜山の名勝に合わせてつくった、日本最古の噴水と言われる湧水です。

自然の湧水を利用したもので、水源から地下に管を通して直径約4.5mの池の中央から噴水が出るようになっています。

今の噴水の高さは1mほどですが、昔はもっと高かったそうです。

池には大きな鯉が数匹泳いでいました。



この噴水は夏の暑い期間には人々に涼を与え、田畠の灌漑にも利用されていました。

偕楽園公園内の桜山駐車場のわきにあり、現在の噴水に比べると地味なので、あまり注目されていないように思います。

⑫笠原水源

茨城県メディカルセンターの北側にある細い道から、逆川にそって200mほど北に進んだあたり、南北に長い逆川緑地公園の南側にある湧水です。

笠原水源は、徳川光圀公が1663年に完成させた日本で18番目の水道「笠原水道」の水源です。

笠原水道は、この水源から岩樋を使って、当時水質の悪かった下町（今の下市地区）まで作られた総延長10kmの上水道です。

近くの広場には、当時の岩樋の復元模型があります。

現在水源地にある竜頭栓から出る水は、この湧き水に塩素を加えた水ですが、水道水よりもおいしいと言われ、くみにくる人が絶えないそうです。

水戸市水道部で発売している「水戸の名水黄門さん」は、笠原水源の水を使用しています。



4. まとめ

文献や現地での調査の結果、湧水の役割として感じたことを下の表にまとめました。

湧水の主な役割

	飲用	生活用水	農業用水	観光	憩いの場	自然とのふれあい	文化・歴史遺産	信仰	公園として整備
大井戸		○	○			○			
軍民坂湧水	○	○							
三寒泉ほか	○	○					○	○	
渡里湧水群						○	○		
曝井				△	△		○		○
お茶の水湧水群			○			○	○		
神明水			○		○			○	○
洗心泉						○	○		
小澤の滝					○				○
吐玉泉	△	○		○	○		○		○
玉龍泉							○		○
笠原水源	○	○			○				○

水戸の湧水に共通していることは、昭和の初め頃までは水量も多かったが、その後数十年で水量が激減しているということです。

茨城県は高い山が無いため、水戸の台地の裾にある湧水は、台地に降った雨が全てです。

宅地が増加し、道路の舗装が進んだことで、雨水がほとんど地面にしみ込まなくなつたことが原因でしょう。

湧水の魅力を考えたとき、水量はとても大切です。

「多くの人に愛される湧水に復活させたい」

そういうった気持ちから、湧水の復活に取り組んでいるところもあります。

湧水の復活は生活を豊かにするだけでなく、災害に強い都市づくりにつながります。

水戸市でも是非進めてほしいです。

ex. 【川越市の取り組み】

- ・学校の校庭、駐車場、道路、公園等を利用した雨水貯留浸透事業
- ・雨水浸透ます、浸透式側溝、吸込み槽、連結式浸透ます等の設置
- ・雨水地下浸透(透水性舗装整備)の推進 …など

地元の人達にとって、飲用や生活用水としての実用的な価値はなくなっても、湧水は今まで自分たちの生活を支えてくれた大切なものです。

地域の誇りやよりどころ、文化の象徴・歴史の証拠として次世代に伝えるなど、もっと湧水を活用してほしいなと私は思います。

そしていつかは、観光資源となり、多くの人に価値を認められることを願っています。

参考文献

- ・『水戸市史（上）』（水戸市、1963年3月）P205～209
- ・「小澤の滝①、②」網代茂『水府綺談』（新しいばらきタイムズ社、1992年）P113～125
- ・「水辺にたたずみ」『水戸発見』12号（水戸市、2001年4月）P12～13
- ・「玉流泉」『水都だより』14号（水戸市水道部、2006年11月）表紙
- ・「水戸市の水にまつわる場所」『水都だより』22号（水戸市水道部、2010年11月）P2～3
- ・「湧水水質調査結果」『水戸市新環境基本計画（案）』（水戸市、2013年10月）P15
- ・「笠原水源が育む緑豊かな公園」『水都だより』35号（水戸市水道部、2017年7月）P2～3
- ・『水戸の水道 平成30年度版』（水戸市水道部発行小冊子）
- ・「溜池及び湧水の環境調査」『水戸市の環境 平成29年度版』（水戸市、2018年1月）P75～77
- ・『渡里湧水群を活かす会』（<http://yuusui.watari.net/>、2020年10月閲覧）
- ・「水戸市中心市街地の湧水空間デザインに見る人と水辺の関わり方の変容」熊澤貴之『デザイン学研究』63巻（日本デザイン学会、2016年）P15～22
- ・『水戸の坂道、水辺の風景』（水戸まちづくりの会、2018年3月）
- ・糸子朱明著『みと：現時点でとらえた水戸の過去と将来』（水戸ふろむなあど社、1970年）
- ・茨城県神社誌編纂委員会編・著『茨城県神社誌』（茨城県神社庁、1973年）
- ・「4-6 湧水の復活（水の循環）」（川越市、2007年4月）『第二次川越市環境基本計画（平成19年4月）』P75～79